



伊豆市

議会だより

No.15

発行：伊豆市議会 <http://www.city.izu.shizuoka.jp> 編集：議会報編集特別委員会
〒410-3292 静岡県伊豆市市山550 TEL 0558-85-2606 2008.2.1発行



新春マラソンで 今年も元気にスタート!!

土肥地区で元旦に新春マラソンが行われました。参加者は寒さを吹き飛ばし、元気に走りました。

目次

CONTENTS

■ 議長新年のあいさつ	2
■ 12月定例会の概要・行政報告	3
■ 委員会質疑	4
■ 一般質問	5
■ 特集「小学校の統廃合」	10
■ 意見書・決議	11
■ 議員の新年の抱負	12
■ 常任委員会行政視察報告	14
■ 議会を傍聴して・3月定例会の予定	16

平成二十年

新春のごあいさつ

伊豆市議会 議長 堀江 昭二



皆様には、平成二十年の新春を健やかにお迎えのこととお喜び申し上げます。市民の皆様の市議会への温かいご支援とご協力に厚くお礼申し上げます。

さて、日本経済の先行きは、企業関連の好調さが持続されつつ、各家庭へも波及し、国内の需要拡大に支えられた景気回復が続くと報じられておりましたが、原油価格の高騰やサブプライムローン問題が経済に悪影響を与え、雇用不

安や個人消費の低迷など、なかなか不安定な状況が続いております。

伊豆市では、地域の皆様のご協力のもとで新火葬場の建設が本格化しており、本年四月の稼働に向けて名称は「伊豆聖苑」に決定しました。

また、伊豆縦貫自動車道天城北道路並びに、アクセス道路及び、市道大平、日向線の建設が進められておりますが、国、県のご支援のもとで、市民生活の益々の充実と利便性が現実のものになりつつあります。

また、国道136号土肥新田地区の拡幅工事並びに、崩落箇所ので改修工事が進められています。さらに、県道修善寺天城湯ヶ島線の日向地区と矢熊地区でも、念願の狭小箇所の拡幅工事及びバイパス

工事が始まり、それぞれ一日も早い完成が待たれます。

また、森林づくり県民税を活用した森林の再生事業に取り組んでおりますが、平成十九年度には、市内の天城湯ヶ島地区、土肥地区、大平地区外五箇所ほどで、約六十ヘクタールに及ぶ整備が進められました。今後も申請箇所を増やしながら、森林及び環境整備が進められることを期待いたします。

次に、広域消防組合である田方消防署は、函南町の北署、伊豆の国市の中署が整備済みであり、伊豆市の拠点として、日向地区に南署が建設されておりますが本年三月末の完成、四月一日の開署を目指しており、今後は、火災やレスキュー救急出動等、直接市民生活に関わる安全・安心のまちづくりが、より一層推進されるものと思われま

次に、健康で明るい市民生活を送るための施策として、平成十七年十月から開催している、伊豆市の新しい湯治のかたちを示した「T O・J I博覧会」。今後も県のフアルマバレー構想と連携させ、市民の皆さんの健康づくりを第一に

考え、伊豆市流「湯治」システムの確立と、おもてなしのメニューづくりが進められることを期待いたします。

今後とも市民の皆様と共に、行政とのパイプ役として「協働」、「協調」をさらに推進し、人づくりや協働プロジェクトの拡充に努め、伊豆市発展のために全力を尽くす所存です。

結びに、本年も皆様の格別なご理解を賜り市議会に対し、より一層のご支援とご協力をお願い申し上げますと共に、皆様方の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。新春のご挨拶といたします。



与市坂(天城)から望む富士山

平成19年12月定例会

一般会計
総額 156億5620万円に

12月定例会が、12月5日から12月21日までの17日間の会期で開かれました。今定例会での一般会計の補正内容は、災害復旧費、人件費の見直し、衛生費・民生費・農林水産業費などの事業費の調整などを中心に、2億2230万円を追加するものです。

提出議案

【平成19年度補正予算】

- ・一般会計補正予算
- ・特別会計補正予算
- （介護保険特別会計他8件）

【条例】

- ・伊豆市職員の給与に関する条例の一部改正について 他2件
- （職員給与は人事院勧告に基づき、国家公務員や県職員との格差が大きい若年職員の給与を上げるものです。）

【その他】

- ・市有財産の無償譲渡について（柏久保育園の民営化に伴い、委託法人に、建物及び備品を無償で譲渡するものです。）
- ・公の施設の指定管理者の指定について（修善寺グラウンドと修善寺体育館の指定管理者を特定非営利法人 伊豆市体育協会とするものです。）

以上、すべての議案は可決されました。

市長行政報告

平成19年12月議会に先立ち、関係する諸議案を提出するとともに、行政報告を申し上げ、議員各位を初めとする、市民の皆様方のご理解と、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

現在、新年度に向けて予算編成作業を進めておりますが、集中改革プラン並びに、総合計画実施計画に則り、事務事業の評価を実施し、適正な事業計画推進に向けて取り組んでおります。

さて、平成19年を振り返りますと、4月には、修善寺温泉開湯1200年祭並びに、井上靖生誕百年記念祭の幕が開けられました。

5月には、NHKのど自慢公開生放送が行われ、9月1日には、時の安倍総理をお迎えして、静岡県・伊豆市総合防災訓練を成功裏に執り行うことが出来ました。また、新火葬場は、名称も「伊豆聖苑」と決定しました。



ここで、当面する課題についてご報告いたします。伊豆赤十字病院の産婦人科につきましては、平成19年6月に1名の医師が退職、平成20年3月末で残りの1名も退職希望を出していることから、再び休診に追い込まれる状況にあります。また、内科医につきましても、現状2名体制のところ、平成20年4月より1名になる可能性が高く、診療への影響が懸念されます。

以上、厳しい行財政の中にあつて、行政事務の効率化、無駄を省き、職員一人ひとりが意識改革を進め、市民サービスの向上に努めてまいりますので、議員の皆さん並びに、市民各位のご理解と、ご協力をお願い申し上げます。

委員会

こんな審議がありました

総務委員会

◆バス路線維持事業補助金

問 毎年5300万円強の補助金を出しているが、路線の見直しは、路線バス問題対策協議会の中で、通学通勤関係の運行は現状を維持し、乗降客の少ない路線は回数を減らしていく考えです。

◆公用車両管理事業

問 廃油利用燃料費は、普通の燃料費と比べどの位違うのか。

答 廃食油を精製したバイオディーゼル燃料を使用しているが、単価的にはリッター95円程度で、市販の軽油より安いと思います。

◆退職勧奨について

問 市独自の勧奨があるのか。
答 特別にはないが、将来に向け勧奨退職、定年退職の見直しを進めていきます。現状では早期退職加算率2%の上乗せを実施しています。

福祉文教委員会

◆特別支援教室支援員

問 支援が必要な子供は増えていくか。

答 特別支援学級の対象ではないが普通学級では手のかかる子は大勢います。支援員は、もつと増やしていきたいのが現状です。

◆修善寺体育館管理委託

問 指定管理者に管理委託すると、管理経費はどのように変わるのか。
答 休館日が減るため、管理経費は上がるが、直営で管理することに比べれば若干削減できます。サービス向上と、体育協会の活動拠点をづくり、将来は市の事業で体協にできるものは移管していきたいと考えています。

◆柏久保育園

問 民営化後の園舎建て替えなどの時に、保護者に負担を強いることはないか。
答 通常保育についての保育料は、市で決定します。特別保育について負担を求める場合もありますが、国の定める保育単価で定められているものは、すべて公立でも私立でも同じです。

観光経済委員会

◆治山事業

問 治山事業の県単茅野野畔治山工事、2100万円減の詳細説明を求めます。

答 台風9号により上流保安林から悪水が流れ下流の民地が荒れたので県へ要望しましたが、国道横断と下流に水路が無く、民地でもあるために整備が難しいとのこと
で不採択となりました。

◆天城温泉会館事業

問 温泉湯管にスケール(アク)が詰まり296万4000円の補正予算となった詳細説明を求めます。

答 管の詰まりで湯湯量が減少したために湯ヶ島財産区より無償で毎分30リットルの湯を増量してもらいました。しかし、それでも足りず水を温め加えなければならなかったための緊急措置です。



土木水道委員会

◆簡易水道事業

問 管理道借地料4万2000円の減額について。

答 湯ヶ島のわさび組合の要望により持越の後藤沢水源の仮設道路を残すという中で、面積等の確定により、占用料7万8000円となったため減額です。

◆下水道処理場管理費

問 下水道処理場修繕費1200万円増額の理由は。

答 土肥処理場の空調設備と天城処理場の変圧器盤の修繕です。また、天城の箕子橋マンホールポンプの能力アップのため、増額計上しました。

◆市道整備

問 丸ノ沢砂防堰堤工事について。

答 国交省によると、本年度用地買収を行い、来年度工事に着工。仮設道路を計画し堰堤完成後、付け替え道路をつくと聞いています。

市政を問う 一般質問

12月定例会での一般質問は、12月10日・11日の2日間に、18名の議員が41件について行った。質問と答弁を要約してお知らせします。

※紙面の都合上、一議員一質問です。詳しくお知りになりたい方は、各図書館・議会事務局で会議録をご覧ください。

小学校の統廃合について

質問

少子化により子供たちの数は急速に減少しています。この状況下では更に複式学級が増えます。早急に適正規模の教育環境を整える必要があると思います。合併して三年が経過しました。市民は当初より実情を把握し理解していると感じています。未来を担う子供たちのためです。英断してほしいと思います。

内田勝行 議員

答弁

児童生徒のため、適正規模の教育環境を整え、同時に学校は地域のコミュニティ的な役割を担っているため、今後保護者や地域住民の理解と協力を得られるよう努力しなければなりません。基本的には複式学級は避けたいと考えています。そのために複式学級に移行する前に統廃合を考えたい。

複式学級に移行する前に統廃合を考えたい

学力テストの結果について

質問

文部科学省は4月に小学6年生と中学3年生を対象にした、全国学力・学習状況調査を実施しました。児童生徒の学力・学習状況を把握・分析し、教育の結果を検証し、改善を図るものです。伊豆市及び市内の小中学校の結果はいかがですか。分析結果、改善、対策はいかがですか。

森 良雄 議員

答弁

国、県の平均と同程度またはそれ以上でした。中学の国語は県並みですが、「読むこと」はやや低いので、学校図書・読書活動を充実したい。生活習慣が整っている子はよい傾向が見られます。この結果を、子どもは学習や生活を見直すきっかけに、学校には、指導の見直しの資料にするようお願いしました。

国、県の平均またはそれ以上

医療教育機関である看護・介護・短大の誘致

質問

①伊豆市の人口減少対策は。また活性化に向けて企業誘致の可能性がありますか。②県のファルマバレー構想（医療関係の産業・先端健康産業の集積地）が充実。伊豆市には医療関係の教育機関である医療短大、看護、介護、リハビリ等の若者を増やす機関を誘致していく検討をどうですか。

室野英子 議員

答弁

人口減少対策として、交通基盤整備や環境衛生の充実、ウエルネスや農業を通じた都市との交流を進めています。企業誘致は、今後の土地利用や、助成制度の取り組みで可能性が出るかと思えます。ファルマバレー構想に基づく学校の誘致は、企業誘致の取り組みの中で、併せて考えていければよいと考えます。

学校誘致は企業誘致の取り組みと併せて

教育環境の整備について

質問

小学校の体育館は新設や耐震補強工事が進められてきたが、中学校の体育館も必要でないか。今後の計画について伺います。

古見梅子 議員

長 答
教育

地震に対する耐力度数が基準に満たないものを点数の低い順から早急に行なっていく方針で、修善寺南小体育館の建設を平成21・22年度の2年間で計画。中伊豆中体育館は23・24年度で建設したい。天城中体育館は耐震補強工事を平成21年度に、土肥中と修善寺中体育館は、補強改築の必要はありません。

地震対策のための基準が目安

伊豆赤十字病院産科存続と妊産婦健康診査回数増の状況

質問

去年、当局と市民の協力などで、産科再開で喜んだのもつかの間、来年4月に廃止されようとしています。存続のために、近隣自治体への協力要請など当局の対応を伺います。

妊産婦健康診査の公費負担数を増やすことを検討しているとのことですが、状況を伺います。

木村建一 議員

長 答
市

産婦人科存続のため、県庁、日赤県支部、伊豆赤十字病院へ要望活動を行ったが、医師不足は深刻で大変厳しい状況です。今後も産婦人科医師確保の活動を続けます。

妊産婦健康診査の公費負担回数は、国の指導もあることから、来年度より現行の2回から5回に増やしたいと考えます。

要望活動を継続します

農地銀行の設置を

質問

大規模農家に農地の集積を計り、国際競争に耐えられる農業を目指すといった国の指針がありますが、中山間の小規模圃場の多い伊豆市には余り該当せず、今後更に担い手不足や米価の下落で荒廃農地の増加が心配されます。農地銀行を設置し、非農家に有効利用をしてもらうことも考えるべきではないでしょうか。

三須重治 議員

設置を検討します

長 答
市

遊休、荒廃農地の実態調査をし、国の方針を進めていく中、非農家の利用も推進していきます。



老朽化し、早期建設が待ち望まれる、修善寺南小学校の体育館



産婦人科の医師不足が深刻化する伊豆赤十字病院

地域防災の要である消防団



田方南署完成後の
地域防災対策について

質問

中伊豆・天城・修善寺支署の施設の活用と消防団員の確保並びに消防施設の充実について伺います。

塩谷尚司 議員

地区の要望を踏まえ検討

市長
市答

3支署の施設の活用は、地区の要望を踏まえ検討します。現在、消防団員は692名ですが、災害時を想定すると700名以上は必要です。また、人間形成の面からも団員確保は重要です。消防施設は消火栓1205箇所、貯水槽202箇所あり、概ね足りていると思います。

一般廃棄物処理施設
建設地に関して

質問

堀切地区の過半数の住民が反対を表明している一般廃棄物処理施設に関して、専門家ではない行政スタッフによる安全説明では十分な地元理解を得られていない。市長自身が住んでいる地区に同施設が建設されると仮定した場合、あなたは子孫末代を考慮してどのような安全・安心確保を求めるのでしょうか？

大川 孝 議員

専門家の説明や施設の
見学などを求める

市長
市答

私が一市民であることを考えますと、まず計画がどのようなものなのか、またこの計画においてどのような安全・安心策がされているかなどについて、専門家の説明を求めます。今のところ別の候補地は検討していません。

公共事業の進捗状況と
その問題点

質問

① 県道修善寺・天城湯ヶ島線
② 新火葬場
③ 池尻川砂防堰堤
④ 川久保砂防堰堤
⑤ 田方消防南署
⑥ 市道大平・日向線
⑦ 天城北道路

加藤 章 議員

計画に沿って
着々と進めています

市長
市答

① 家屋移転等地権者9名と交渉中です。② 20年4月の供用開始に向け進めています。③ 用地買収が完了し、堰堤工事を19・20年度で施行する予定です。④ 20・21年度に工事着工の予定です。⑤ 20年4月の開署に向け順調に進めています。⑥ 21年度末の供用開始に向け進めています。⑦ 20年3月末には、修善寺ICから大平ICまでが開通予定です。

今年4月の供用開始に向け、建設が進む田方消防南署



地元産業に具体的な支援を

質問

日本の景気は良いといわれていますが、地方の中小企業には全くその実感がありません。他の自治体では社員を増員する場合、地元採用には補助制度を設けるなど、さまざまな対策をとっている所もあります。伊豆市の企業が生き残るために、固定資産税に対する優遇などの支援策は考えられませんか。

鈴木基文 議員

**市長弁
市答**

国や県が提案している「企業立地促進法」は、当市の規模を超える工業団地的な集積地域に対するインフラ整備の充実、交通アクセスの容易さ、周辺の環境、労働力確保の容易さ等が求められているが、当市では大規模企業の誘致策を模索するよりも市内既存企業の拡張支援、関連企業の誘致等を検討すべきと考えます。

**既存企業の拡張支援や
関連企業の誘致を検討**

**「伊豆市よろず便」への
応援を考えて下さい**

質問

当市では、限界集落の増加に備え、また既存商店の生き残りを考え、民間の若いリーダー達が立ち上がりました。ベンチャービジネスと考えて良いと思いますが、商工会天城支部青年部の「伊豆よろず便」です。ベンチャービジネスはリスクも大きく継続性に問題があります。市でも応援することができないか伺います。

酒井勲一 議員

**市長弁
市答**

中山間地を中心とした高齢者のための登録商店による宅配システムは、地域の現状を考慮した商業の活性化策ではないかと思えます。天城支部にとどまらず、市内全域に広がりを見せ、地域の活性化につながる事を期待し、応援については検討します。

今後の推移を見て検討

**景観条例とごみ収集の
見直しについて**

質問

1. 環境の保全や観光資源を保守するために、景観条例等を制定するお考えはありますか。2. 街並景観を維持するために、ごみやタバコのポイ捨てを規制するお考えはありますか。3. ごみの収集方法を見直すにあたり、資源ごみの収集を月4回から12回にする理由とメリットとデメリットについて伺います。

飯田宣夫 議員

**市長弁
市答**

景観法を検討する中で、先進市町の状況等を調査、研究し、法整備に努力します。資源ゴミの収集回数を増やすことにより、メリットは可燃ゴミの中へ資源ゴミの混入防止が図られます。デメリットは、運搬費用の増加が懸念されます。

**調査、研究し、
法整備に努力する**

市に対する訴訟について

質問

現在、市に対してどのような訴訟があるのか。それは誰がどのような理由で起こしているのか。市としてはその訴訟に對して、思い当たる事があるのか。この訴訟についてどの位の経費が掛かっているのか。それは勝った場合、相手方より訴訟賠償を、請求できるのか。それとも無駄な支出となるのか。

飯田正志 議員

**市長弁
市答**

取消訴訟1件（土地の評価審査の申出を棄却した決定の取消し）、住民訴訟3件（市長が締結した16件の契約についての損害賠償請求）の4件があります。訴訟の対象となっている行政事務はすべて適法に行われていると信じています。経費は、総額約一千万円ですが、これらの訴訟費用は請求できないものと思えます。全て税金で賄います。

**総額は約一千万円に
なります**

市道矢熊・筏場線の改良計画について

質問

この路線は基幹道路の構築を検討し優先順位の高い道路と認識され、林道を市道一級幹線に認定替えをして戴きました。次は伊豆市の主要道路が東西幹線を充実して、修善寺を基点に中伊豆地区と天城地区で新たな地域作りが出来るので、まずは基本設計に入り待避所予算付等、早急に計画を立てるべきと思うが。

杉山 晃央 議員

市長 市答

今年度、ルート案を、現地調査及び、地図上で検討し、来年度以降、概略計画及び現道使用箇所には待避所計画を進めたい。21年度以降の予算配分を考え、国の補助事業で進めていきたいと考えています。

重要な路線と認識している

土肥中央農道建設の再開について

質問

継続事業が再開されるべく、当初は動きがあり、受益者、役員等協力してきたようだが、その後動きが見られない。果たして再開されるのか。また、継続されるとしたらいつからか。

鍵山 堅一 議員

市長 市答

ルートを変更し、19年度は全線1500mの基本測量と来年度分の実施設計400m及び用地測量を予定。20年度には残り1100mの実施設計と用地測量及び、全線の用地買収、遺跡調査を計画し、開設工事も400mほど実施予定です。

随時、計画的に進めていきます

ふじみ荘跡地売却について

質問

前回は後から似た価格の不動産鑑定を付けるということをした。有益な企業誘致のための、安値売却なら解る。国道上の国の鑑定が10万円なのに、海辺の一等地のふじみ荘跡地鑑定が4万円余では差が大きすぎる。募集要項も、急ぐ理由も不透明。次期市長に処分を委ねたらいいか。

関 邦夫 議員

市長 市答

土肥ふじみ荘の売却募集については、今回3回目として前2回の募集が不調に終わったことから、用途等の条件を緩和し、応募機会を広げて売却処分を推進するための方法で、その選定にあたっては、民間人2名を含む審査会を設置しており、一業者に便宜を図るようなことはできないものと考えております。

公平な売却を推進する



県道伊東西伊豆線の拡幅に伴い、矢熊筏場線の入り口も拡幅されている



旧土肥ふじみ荘と八木沢漁港

時間外窓口の開設できませんか

質問

共働き世帯や単身者など、会社勤めの市民にとって平日の市役所開庁時間に市役所に行くことはなかなかできません。すでに時間外窓口を開設しているところでは住民に大変好評のようですし、税金の収納率も向上できると思います。市民のための市役所として、夜間や休日の窓口開設ができませんか。

杉山 誠議員

今後の検討課題

市長答

時間外窓口を設置するには、情報センターのコンピュータを立ち上げ、センターの職員が付いていなければならず、また、コンビニなどと協定するには大変費用がかかることから、現在は実施していません。他の市町で行っているところもあります。当市では今後の検討課題したいと思います。

勤務評定

質問

活気ある市役所をつくるために勤務評定は欠かせません。過去2回、一般質問で勤務評定について提案しましたが、都度前向きな回答でした。今までの検討結果と実施予定を説明してください。行政視察で伺った岐阜県高山市では、伊豆市より1年遅れて合併しましたが、既に勤務評定を実施しているとのことでした。

小野忠宏 議員

段階的に試行していく予定

市長答

本年7月に、管理、監督職員を対象に人事評価システムの研修、また課長補佐以上及び出先機関の長を対象に研修を実施、11月にはコンサルタント業者と人事評価システム構築支援業務の委託契約し、今年度中にはシステムを完成させ新年度より段階的に試行していく予定です。

特集

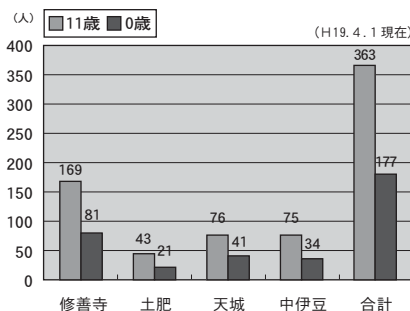
小学校の統廃合

現在、少子化が加速する中、伊豆市でも子どもたちの数は年を追うごとに減少しています。市長は、12月議会の一般質問で「小規模学校が多い現状を考えると、統廃合は避けては通れない課題であると考えます」と答弁しました。教育長は「複式学級は避けたい。そのために複式学級に移行する前に統合を考えたいというのが、教育委員会の基本的な考え方で」と答えました。

複式学級の現状と今後については、既に大東小学校で3・4年生、5・6年生が複式学級で運営しています。今後は土肥南小学校が平成22年度に2・3年生が複式になり、平成24年度からは複式が2学級に増える予想です。また、月ヶ瀬小学校は平成20年度に4・5年生が複式になります。県の補正により現行の単学級運営ができます。しかし、平成24年度には完全に複式学級に移行します。このように学校に於ける子どもた

ちの教育環境は、大きく変わろうとしています。しかし一方で学校は地域のコミュニティセンター的な役割を持つています。無くなる事への地域住民の不安もあります。保護者や地域住民の方々により良い教育環境の必要性を説明し、理解と協力を得る努力を重ねる必要があります。

小学校6年生と0歳児の人数比較表



平成20年度以降複式学級が見込まれる小学校区域別・学年別人数

年齢	小学校区	土肥南	月ヶ瀬	大東	平成20年度児童数 及び学級編成数 H19.12.1現在
11	小学6年	8	19	6	平成20年度児童数 及び学級編成数 H19.12.1現在
10	小学5年	12	6	7	
9	小学4年	14	9	6	
8	小学3年	13	10	9	
7	小学2年	12	19	4	
6	小学1年	4	9	7	
5	年長	8	10	10	通学区域出生数 H19.4.1現在
4	年中	8	13	7	
3	年少	5	3	2	
2		7	10	6	
1		7	6	4	

12月定例会で意見書・決議を採択し
関係機関に提出しました。

意見書・決議

医師不足を解消し、安心できる地域医療体制の確保を求める意見書

〔提出先〕衆議院議長・参議院議長・内閣総理大臣・厚生労働大臣・総務大臣・文部科学大臣

昨今、全国的に医師不足が問題となっており、特に産婦人科、小児科は深刻化しています。また、医師不足だけでなく看護師や助産師の不足も問題となっています。

当市の伊豆赤十字病院では、平成18年3月末で産科医師不足により、一度は休診となりましたが、市当局や市民の皆さんの陳情の結果、同年10月から再開となりました。しかし、再び医師不足により、平成20年4月から産婦人科医療を中止しなければならない状況となっています。地域住民が安心して生活するためには、医療サ

ービスが身近で、いつでも利用できることが重要であり、こうした医師不足問題の解消は喫緊の課題となっています。

このことから、政府は医師不足を解消し、安心できる地域医療体制を確保できるよう、総合的なビジョンを早急に策定することや、救急医療体制の整備・維持、周産期医療体制の整備・維持のための支援策の拡充を図ることなど、10項目の具体的な施策を挙げて、国へ要望しました。

伊豆赤十字病院産科休診に係る産科医確保に関する決議

〔提出先〕伊豆赤十字病院院長・日本赤十字社静岡県支部長・静岡県知事

伊豆赤十字病院は医師不足により、平成20年4月から産婦人科医療を中止しなければならない状況に陥っています。またもや、伊豆の国市を含む伊豆市以南の伊豆地域には、順天堂大学医学部付属静岡病院を除き産科がなくなり、出産時には遠方への通院を強いられることとなります。

当市は少子化の進展が著しい中、産科の休診は少子化を一層助長するものであります。

そのことから、伊豆赤十字病院の産科医確保が

実現されるよう強く理解と協力を求める旨の決議書を、伊豆赤十字病院をはじめ関係機関に送付し要望しました。



伊豆赤十字病院院長へ
決議書を提出

※その後、伊豆赤十字病院院長より、婦人科については継続されるとの報告がありました。

乳幼児医療費自己負担金を公費で賄うことを求める決議

現在、ほとんどの自治体で入学前までの子どもを対象に入院・通院の自己負担金が1回500円となっています。伊豆市においても同様です。しかし、わが国の少子化問題は深刻な状況にあり、子供を安心して産み、育てる環境の整備の充実、とりわけ疾病等に対する保護者の経済的負担の軽減も強く求められています。下田市では今年4月から入院・通院の自己負担金をなく

し、また、焼津市では対象年齢を小学校卒業までに引き上げるなど拡大する自治体がふえています。当市においても、一層の子育て支援や安心のために乳幼児医療費自己負担金を公費で賄い、軽減の拡大を図るよう強く要請することを決議し、伊豆市長あてに要望しました。

議員 新年の抱負

よりよい伊豆市のために



杉山 誠議員

伊豆市は子育てに冷たい。多くの市民から聞かされる言葉です。財政が厳しい中でいかに住みよい街づくりを進めるか。行財政の無駄を省き、必要な施策がしっかりと行われるよう、今日より明日へと、日々心新たに改革に取り組み一年としていきます。

鈴木 基文議員

地方分権改革が進むにつれ、地域間格差がより大きくなるといわれています。市を悪いほうへ向けないためのチェックする力と、発展させていくための政策提案の力を、よりつけて、議員としての資質をあげていきます。

内田 勝行議員

本年は任期最後の年で、新たな気持ちで改革に取り組みます。課題は山積みです。四月に新市

長が誕生します。市の歩むべき方向を示してくれると思いますが、行政側と力を合わせ市民のため最大限の努力をします。

山下 一議員

地方分権により、ますます厳しさが増してきます。人口減、歳入減、医師不足など良い材料が見当たりません。行財政改革なくして伊豆市の明日はありません。住民サービスを落さず職員を削減するには機構改革が全てです。解り易い議会活動に邁進したいと思えます。

加藤 章議員

伊豆市の人口の減少に歯止めがかからず、地域の活力が削がれ学校の統廃合等深刻な事態に直面している。伊豆市にとって不都合な規制の見直しが急務と考える。

室野 英子議員

伊豆市における学校統合問題は、大きな課題の一つです。本年は、子どもたちの教育環境のために、時間をかけて、地域の方々、保護者の声を聞きながら、納得できる方向を見つきたいです。福祉文教委員会の仲間と協力し、一月から活動スタートです。

飯田 正志議員

今年選挙の年になります。市長選、衆議院選、そして市議会の選挙と、誰を選ぶのかによってこれからの4年間が決まります。私自身も、将来の伊豆市のために誰を選ぶか、そして誰を応援するのか真剣に考え行動していきたいと思っています。

森 良雄議員

昨年の日本は不祥事に始まり不祥事に終始しました。今年は信頼を回復する年です。情報の開示と説明責任をはたすことで、市民の信頼を得て、暮らしやすい、安心・安全のまちを築きます。

古見 梅子議員

豊かな自然を生かし、人を生かし、市民協働で元気ある伊豆市を築きたい。伊豆市型グリーンツーリズムの推進がいい。前向きに、プラス思考で精一杯努力したい。伊豆市のため、私の生きがいのためにも。

磯 晴雄議員

一、明るい社会づくり運動の先頭に立ちたい。暗部に灯りをとます
二、少子高齢化のモデル地域にしたい。安心な市や地域に



三、青少年の健全育成のモデル地域にしたい。
声かけ運動
四、既存企業の発展と人口増加の夢を見たい。
自立の市に。

鍵山 堅一 議員

合併後、未だ市民の方々から合併のメリットはないのではないかと、不便になっただけだとよく言われている。こうした意見を真摯に受け止め、行財政改革に取り組み、市民の皆様の声を行政に反映出来るよう努力します。

杉山 羌央 議員

伊豆市になって五年目、市議となって四年目。節目の年に、確実な一歩を進めるために市民の目耳となり初心に帰って、市民生活の問題点を再検討、再構築すべきと心新たに致しました。御意見、御協力をお願いします。

飯田 宣夫 議員

新しい伊豆市を構築するためにも、厳しい財政状況を直視し、独自の行財政改革を早急に進めなくてはなりません。議員として『身を削っても改革を求めろ』姿勢で取り組みます。一方、福祉医療・教育・環境問題や市の財政力を増す産業施策には積極的に参加して行きます。

酒井 勲一 議員

議員定数の削減には市民の皆様に御協力いただきありがとうございます。平成20年、私の議会活動重点目標(1)公用車の使用問題の議論、(2)ゴミ焼却場問題の議論、(3)更なる議会改革への議論へ…

木内 一郎 議員

175人、18年度の出生数である。19年度も180人前後が予想される。人口減は、全国的な傾向ではあるが、住環境整備を始め、すべての施策について、見直しを求められる。発想の転換をして、人口減に歯止めをかけた。

塩谷 尚司 議員

伊豆市を取り巻く環境は大変厳しいものがある。議員として四年目、難題に一步一步真正面から取り組んで行きたい。

関 邦夫 議員

新築間もない幼稚園が、廃校になる。過疎は予想をこえ限界集落に向かう。静岡空港、土肥港まちづくり、伊豆縦貫道等未来があるが、受け入れ体制が未整備に感じられる。受け入れ体制の強化に力を入れたい。

小野 忠宏 議員

伊豆市は人口が減りつづけています。合併後も、人口増対策は皆無で推移してきました。自治体の活力源、税収源の第一が人口であることを考える。このまま放置は許されません。今年、この点に焦点を絞りたいと思います。

大川 孝 議員

全ての市民が快適で安心に暮らせる、より良い社会環境を作ることが責務です。働く場所の確保、そして更なる行財政改革の推進。市民の肉声を最大限、市政に反映させるため、皆様の意見・提案に耳を傾ける所存です。

三須 重治 議員

議員の任期も一年を切りました。残された期間、悔いのないよう、全ての分野で市民のために全力で働くことを年頭に当た

り再確認しています。

遠藤 正寿 議員

合併して議員任期最後の四年目になりました。現在日向地区に伊豆聖苑・田方消防南署・天城北道路大平インターの平成20年4月完成に向け進んでいます。今後はゴミ焼却施設の早期完成に向け取り組んで行く所存です。

木村 建一 議員

国保税、遠距離通学費、保育園民営化、ゴミ焼却場建設問題などに取り組みました。今年も『市民の声』を大切にして頑張ります。

合併効果の積明なく、財政難の一言で市民サービスマン後退ではなく、皆さんと力をあわせ希望のものを伊豆市にしていきましょう。



各常任委員会 行政視察の報告

総務委員会

(平成19年11月5・6日)

岐阜県高山市に行政改革と職員適正化、退職勧奨制度について行政視察を行った。

高山市は平成17年2月、周辺の町村を編入合併し、新高山市が誕生した。合併に伴う組織の肥大化で財政が悪化し、行財政改革が必要に迫られたことから第4次行財政改革大綱を策定した。現在102項目の改革課題について改革を推進している。

一、**定員適正化**にあたり事務量に適した職員配置の見直し、すべての組織の見直しを行い、組織のスリム化を図る。事務事業の委託、施設の指定管理者制度導入、移譲など民間活力を積極的に活用した。

二、**職員削減**にあたり勧奨制度を見直し、対象を50歳から30歳以

上に引き下げ、併せて早期退職加算も一年につき2%加算し、

17・18年は5%加算、19・20年は4%加算、21年は3%を加算とした。さらに、早期退職年数が20年を超える部分の加算率を倍にして早期退職勧奨を行った。

三、**勤務評価制度**の導入により職員のレベルアップや士気を高め、職務能力の向上を図った。

四、**昇任試験制度**を導入した。

行革推進にあたり、具体的な内容と実施年度を明確に示し、行革目的を達成しようとしている意欲が感じられた。

行革推進にあたり、具体的な内容と実施年度を明確に示し、行革目的を達成しようとしている意欲が感じられた。



▶高山市役所にて、行政改革について説明を受ける総務委員

福祉文教委員会

(平成19年10月24・25日)

伊豆市の課題を論議し、少子化対策と、学校統廃合について視察。

一、**下條村(長野県下伊那郡)**

目的は、少子化対策等。

下條村は、出生率の上があった村として、全国の自治体から視察が殺到している。

「若者定住促進住宅」124戸を建設し、村独自の入居条件に合う若者に、賃貸料を近隣自治体の半額程度で提供。

中学生まで医療費無料。保育料を今年から10%の引き下げ。

財源は、職員の削減と意識改革によるものと、建設資材支給事業により、住民の力で地域を守り、良くする意識の向上を図った。

二、**南木曾町(長野県木曾郡)**

目的は、学校統合の経緯。

遠山教育長から、統合問題が昭和61年から起きたという現在までの歴史を、詳細な資料に基づいて話を伺った。

て話を伺った。

審議会では、児童数・学級数の推移と今後の見通しや通学の状況、児童と地域とのかわり、保育園や中学校から見た小学校など7項目の内容を慎重審議し、平成19年4月、3小学校が統合し、南木曾小学校1校に統合。

三、**岐阜市教育研究所**

目的は、廃校後の校舎の再利用。教職員関係者を対象に研修講座を中心とした機能と、教育情報ネットワークセンターの事業を柱としている。また、不登校の子供のための「サルビア第三教室」、埋蔵文化財の事務所もあり、施設のフル活用をしている。



▲岐阜市教育研究所にて係員から説明を受ける福祉文教委員

観光経済委員会

(平成19年7月25・26日)

飯田市では、「体験教育旅行」と「自治基本条例」。飯伊森林組合では「林業再生事業」について。岐阜県中津川市では「クアリゾート湯舟沢」を視察しました。

一、「体験教育旅行」とは、ここで暮らす人と自然を旅行者が体験できるプログラムを作り、旅行者が体験し感動を味わう体験型観光観光学習、農林体験、食体験等200を超えるプログラムがある。ボランティア的の事業では長続きがしないので、料金設定が重要であるとしている。田植え体験は体験料一人2800円で一反歩100人で2時間の田植え体験をすると、体験料28万円、旅行者者と公社がそれぞれ10%の手数料、収穫した米は体験した人に一キログラム単位で送る。残り20万円は農家のもので所得アップになる。二、「自治基本条例」とは、住みよいまちづくりを進めるには市民の参加が不可欠。市民、議会、行政

の役割を明確にする条例。三、「飯伊森林組合」では田代出身の遠藤さんから、高齢化や不在村化に必要な森林施業の説明を受けた。

四、「クアリゾート湯舟沢」は第三セクター方式。総工費30億円、経常利益1624万8000円、借入残高5億8600万円で、市職員はいない。お役所的赤字経営を組織改革で正し、サービス低下ならず、経営は健全とのこと。



▲の生おた。身ん再てっ。出さ林いて。代藤森つを。田遠らに話(飯伊森林組合)

▼体験教育旅行について熱心に説明していただいた(飯田市役所)



▲住民の願いにより誕生した温泉施設、クアリゾート湯船沢

土木水道委員会

(平成19年10月15・16日)

本年は、三重県の国道バイパス事業、河川浸水対策事業、港湾整備事業について視察を行いました。

一、三重県の国道23号中勢バイパス事業

中勢バイパスは、鈴鹿市を基点とし、津市を経由して松阪市に至るバイパスで、中勢地域の更なる振興支援、環状機能として期待されている。中伊豆地域における国道136号、414号のバイパス整備に匹敵する事業であった。二、宮川床上浸水対策特別緊急事業

宮川流域の上流部は、1,000mを超える山々に囲まれ急峻なV字谷を形成していて、狩野川と似かよった地形が、平成16年9月の台風21号によって甚大な被害をもたらし、現在もその復旧が続いていた。

三、鳥羽港の現況とフェリーの運行情況

鳥羽港は、島々に囲まれた入江

があり、穏やかな波間はフェリーの発着には最適な環境である。伊豆市の土肥港は自然環境の面で大きなハンデを背負っていることから、安定的にフェリーが発着できるような桟橋の設置が期待されている。そのために、港湾整備の研究と整備に掛かる費用、また、伊豆全体の経済効果等を含めて検討することが急務と感じた。

今回の視察を通して、天城道路に係るバイパス事業の早期完成、狩野川の浸水対策と自然の保全、さらに土肥港整備と駿河湾フェリーの今後の在り方を考える上で大いに参考となった。今後、検討課題を吟味して、伊豆市のために役立てていきたいと思えます。



▲国道23号中勢バイパス建設現場にて説明を受ける土木水道委員

議会傍聴へ行ってみました

がんばれ議員さん

櫻井寛治さん 56歳

(牧之郷)

十二月定例会を傍聴した。一般質問では多くの議員さんが市民生活に関わる問題について質問されていた。緻密な調査と資料に基づいて当局を追いつめる方、ご自身の持論開陳に重きを置かれる方など、スタイルは様々だが、ごなたの議論からも伊豆市を良くしていきたいこ

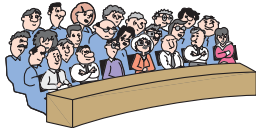
うとする気概は感じられた。

大城市長が勇退を表明され、市政の舵取りが交代することになった。市政の監視役である議員さんの役割は益々重い。残念なことは傍聴者が少ないこと。これでは議員さんたちも張り合いがないだろう。せめて地元や地元近くで議会報告会などを開き、市民と市政をつなぐパイプ役となっていただきたい。来春には市長選とともに市の補選も行われる。立候補される方はパイプ役に徹して市民の信を得ていただきたい。

議会傍聴をしてみませんか

本会議はごなたでも傍聴することができます。

開会当日、天城湯ヶ島支所2階議会事務局受付へお越しください。
なお、団体の場合は、事前に議会事務局までご連絡をお願いします。



伊豆市議会事務局
電話 0558(85)2606

3月定例会の予定

場所	天城湯ヶ島支所	議場
時間	午前9時30分	
2月25日(月)	市長施政方針演説	
	議案上程	
29日(金)	議案質疑	
3月11日(火)	一般質問	
12日(水)	一般質問	
14日(金)	委員長報告・質疑・討論・採決	

※変更となる場合がありますのでご承知ください。

中 間 報 告

行政改革特別委員会から

当委員会は10月11日を初回に、12月3日まで4回の委員会を開催し、その結果、以下の4点を重点事項とし、調査研究を進めています。

- 一、職員数の削減について
- 二、各種団体への補助金について
- 三、市有地の有効活用と賃借料の基準価格について

前委員会で報告された遊休地活用の進捗状況の確認及び、伊豆市としての賃借料の策定基準を検討する。

四、行政、議会と住民とのパイプとなる組織、事業について

まず当委員会として、市民に対する議会報告会の具体案を検討し、議会に諮る。

現在、担当各部から説明を受けており、今後、委員会としての検討結果をまとめ、項目ごとにまとまり次第報告していきます。

編集後記

本年は、四月の市長選と市議補選、秋には市議改選と、伊豆市も選挙の年となります。より多くの人に議会への関心を持つていただきたく、今号はカラー表紙にしました。

今後、行政、議会がどう変わっていくか。市民の皆様にしつかりお伝えできるように、編集委員一同知恵を出し合い力を合わせて、読みやすい紙面作りに精いっぱい取り組んでまいります。

委員長 杉山 誠

新しい議会報編集委員です。どうぞよろしくお願ひします。

